

市町村指定文化財取材票 <<表>>

取材日	2023年	4月	20日	(記入者) 石井宏子	
取材参加者	石井	鈴木	西田	西野	宮本
	本井				
取材対象先	奈良市：八幡神社の中門 付 翼廊2棟				

所在地	奈良市東九条町1316				
所有者(取材対応者)名	八幡神社 作 啓造・宮司 (個人情報守秘)		連絡先	0742-62-3240	
			PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など： 八幡神社				
市町村指定文化財	彫刻 軀	名称(指定年月日)			
	建造物 1棟	八幡神社中門 付 翼廊2棟 1994(平成6)年3月2日 指定			
文化財指定理由	屋根は近年、修復されたが、木鼻や墓股には中世の特徴がよく表れており、奈良市の神社における中世の格式高い四脚門として貴重な建物である。				
文化財の状況					
防火対策	設備・対策・点検・通知方法など			記入者の感想	
	消火器や感知器が配備されており、異常があれば、すぐ対応できる体制になっている。			新しい防災器具が境内のあちこちに設置されていた。また、説明板によると令和元年に終了した修理時に耐震補強も行われたので、問題はないと思う。	
獣害対策	被害の有無、対策など			記入者の感想	
	あらいぐまが時折見かけられたが、木酢剤を塗り、最近は見かけない。			境内も参道も手入れが行き届いており、人も通るので、被害があれば早めに対応できるのではないかと思う。	
保存～継承へ苦労と今後の課題と対策	9世紀に始まる長い歴史の中で、火災や地震や戦乱による衰退を経ながら、近在の村人の力によって復興され現在に至る。現在の中門は、室町時代後期に建てられ、江戸時代に改造・大修理を経て、今の翼廊の形になったと思われる。大正期・昭和期にも彩色や屋根修理、令和元年には平成大修理も終了した。地域も、近年、宅地化が進み、氏子が減り新住民が増えている。宮司様は、地域住民のみならず、多くの方が広く参加できる体験イベントなどの活動等、いろいろな催しを活発に企画されて、手弁当で参加のリピーターも増えている。				
取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)					
文化財修復は幾度も行われ、今の外観や環境が美しく守られている。宇佐八幡神を勧請した折に、神と随行した人を北翼廊、左座(上座)、出迎えた地元の人が南翼廊、右座(下座)にとしたのが機縁の宮座、長い伝統を持つ頭屋行事が継続していることは、民俗学的にも価値が高いとも言われている。神社と氏子さん双方のご努力あってのことで、今、尽力されている神社に縁を結ぶ参加型の活動なども、広範で継続的な維持活動に繋がることと思う。					

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	4月	20日	(記入者) 石井宏子	
取材参加者	石井	鈴木	西田	西野	宮本
	本井				
取材対象先	奈良市：八幡神社の中門 付 翼廊2棟				

《写真撮影・掲載許可済》

文化財指定名：八幡神社中門 付 翼廊2棟

文化財 全景 (正面写真)



八幡神社中門と翼廊の全景
(元石清水八幡宮(八幡神社)HPより、ご許可を得て掲載)

中門と翼廊の一部 (正面)



宮座
左座 (上座)
右座 (下座)

宮司さんが翼廊・宮座を説明して下さる様子

柱・宮座



↑補修されている柱の一例

右 (下) 座には、コモを編むためのマコモ (自社栽培されたもの) も祭礼準備に置かれていた。
↓



文化財の由緒・説明板の有無など

目につく場所に奈良市教育委員会名の説明板を設置。『9世紀、大安寺の僧・行教が宇佐八幡の神を大安寺の鎮守として祀ったのが、当社の創立と伝わる。中門は木鼻や墓股の形状などから、16世紀の建立とみられる。数度の改修を受けているが主要な部材が良く残り、室町時代の神社の門として貴重。両脇の翼廊は大正頃に建て替えられているが、桁や梁などに古材が再利用されている。秋祭りの際、本殿に供える神饌の準備に使われる。令和元年に解体修理を終え、耐震補強も行われた。』

所有社寺や地域 (廃寺など) の歴史や特徴等

大安寺僧、行教が唐から帰朝時、宇佐八幡からお告げを得て、807年に大安寺の鎮守として勧請したことに始まり、平城天皇の勅命で現在地に祀られたと伝わる。火災や、戦乱・地震など、大安寺が一時廃寺の状態になったため、独立し、氏神として村民の手によって復興されたとも伝わる。何度も改修修理を行うが、主要な部材が残り、翼廊にも古材が再利用されて、中世の格式高い四脚門と翼廊の姿が伝わっている。